

会員研修会報告

報告者：平戸カヤックス 末永 直樹

カヤックフィッシング インストラクター・ガイド研修会

日 時：平成 31 年 4 月 16 日（火）～ 17 日（水）

場 所：平戸カヤックス（長崎県平戸市）集合 4/16 8:00 解散 4/17 14:30

講 師：中谷哲也（RAINBOW）/ 赤澤克哉（kayak55）/ 末永 直樹（平戸カヤックス）

主 管：平戸カヤックス

参加者：一般会員 9 名

- ・サニーコーストカヤックス 本橋 洋一
- ・カヌーショップ/カヌースクール RiverWalker 池内 康夫
- ・カヌースクール九州 西胤 正弘
- ・かごしまカヤックス 野元 尚巳
- ・PADDLERS 安藤 誠
- ・kayak55.com 赤澤 克哉
- ・RAINBOW 三河湾シーカヤックススクール 中谷 哲也
- ・平戸カヤックス 末永 直樹
- ・平戸カヤックス 田中 昭一郎（4/16 のみの参加）

研修内容

4/16

- ・カヤックフィッシングの釣具と艀装について 担当：赤澤
- ・カヤックフィッシングの安全啓発活動と事業展開について 担当：末永
- ・カヤックフィッシングの安全管理について 担当：中谷

4/17

- ・カヤックフィッシング研修 担当：中谷 / 赤澤 / 末永
- ・魚のさばき方と調理方法 担当：中谷 / 赤澤 / 末永

今回の会員研修会は、愛好家が急速に増加しているカヤックアングラーに対して講習を行うためには、まずはカヌー指導者の我々がカヤックフィッシングの実践者でなければならない、また販売についても同様で、せつかくフィッシングカヤックを販売する機会が巡ってきても自らが活動していなければ販売につながらないということで企画した研修会です。

カヤックフィッシングを通じて、スクールの事業安定化につなげ、かつ安全啓発活動を行っていくということを目的に開催しました。

1 日目

・カヤックフィッシングの釣具と艀装について 担当：赤澤

kayak55.com 赤澤氏より、日本でのカヤックフィッシング創成期の話や当時の雑誌を使いながら解説していただきました。当時、赤澤氏は釣り関係のメディアに勤務しており、国内でのカヤックフィッシングをしかけた一人という話がとても印象的でした。

実際に釣具、艀装用品、魚探を並べての講習はとても分かりやすく役に立ちました。



・カヤックフィッシングの安全啓発活動と事業展開について 担当：末永

これまで平戸カヤックスで開催してきたシーカヤックの安全啓発活動について報告しました。イベント自体では、収益が上がり直接的に事業経営にプラスになるものではないが、その後の事業活動には繋がっていることを説明しました。

これまでの活動があった結果、地元の手釣具店でF Kの展示受注会を開催できたこと、平戸での安全啓発イベントを機会に制作にいたったヒラドシェーカーの販売状況について話をさせて頂きました。

・カヤックフィッシングの安全管理について 担当：中谷

午後からは、実際にカヤックに乗っての講習となりました。実際に釣具をカヤックにセッティングした状態で、解説を行って頂きカヤックごとに安全面を検証して行きました。

実際の海上での講習は、参加者の多くが公認スクールの代表者ということで、SRP改定のKF部門の写真撮影を行いました。



2日目

・カヤックフィッシング研修 担当：中谷 / 赤澤 / 末永

2日目は、実際のKF研修で、平戸カヤックスの艇庫前の千里ヶ浜で、約5時間カヤックフィッシングを行ないました。

当初は、未経験者の参加を想定して講師3名がそれぞれアドバイスを行いながらのカヤックフィッシングを考えていましたが、参加者全員が普段からカヤックフィッシングの経験者であったために、それぞれに時間いっぱいを研修を行ないました。

釣果は、ばらつきはあったものの、その後の調理講習を行うにあたっては十分な釣果で、一部はお土産にもなりました。



・魚のさばき方と調理方法 担当：中谷 / 赤澤 / 末永

参加者全員が現役のカヤックガイドということもあり、魚の捌き方や調理方法にもたけており、スムーズに豪勢な昼食が出来上がりました。



研修会を終えて

今回の研修は、8 公認スクールの代表者とそのスタッフの計 9 名の参加となりました。

参加者全員がカヤックフィッシングの経験者でした。

研修会を計画した際は、カヤックフィッシングの経験がない公認スクール代表者の研修会への参加を重点的な目標にしていました。

目標としていた理由としては、J S C A 公認スクールが海上保安庁のHPに「受講が推奨され講習（シットオン（トップ）カヤック）」として紹介されている関係から、講習希望者に公認スクールとして、適切な指導ができるようにという思いからです。

また、フィッシングカヤックの販売の話があっても、実際に自身に経験がないとなかなか販売につなげることができません。

現在、カヤックで最も人気があり活動人口が増加しているのは、カヤックフィッシングだと思います。

また、重大事故についてはツーリングカヤックが多い傾向にありますが、潜在的なリスクは、活動人口にもよりますが、むしろカヤックフィッシングが多いと思われます。

このことから、公認スクールの経営安定にもつながり、また安全啓発という社会活動にもなるカヤックフィッシングに取り組む公認スクールが増えればと考えております。